

陸域環境部会からの報告

目次

<u>鵜殿ヨシ原の保全・再生</u>	1
1 鵜殿ヨシ原について.....	1
2 鵜殿ヨシ原の保全対策について.....	2
3 切下げ地対策とその後の維持的措置（追加工事）の経緯について.....	2
4 鵜殿ヨシ原における植生.....	4
<u>令和7年度以降 陸域環境部会について</u>	7

鶺鴒ヨシ原の保全・再生

1 鶺鴒ヨシ原について

鶺鴒地区は淀川河口から約30km上流の右岸側（大阪府高槻市）に位置し、面積は70ha程度である。オオヨシキリの繁殖地で、ツバメのねぐらとなり、多くの貴重な動植物を育んでいる。

また、鶺鴒地区では、雅楽に使用される楽器 箏の蘆舌の材料となる良質なヨシが採れ、日本の伝統文化を支えている。また、かつてはヨシを編んだ葦簀の生産も盛んに行われた。ヨシ原を守るため、2月には地域の伝統行事としてヨシ焼きが行われ、淀川の早春の風物詩となっている。そして春には再びヨシが芽吹き始める。

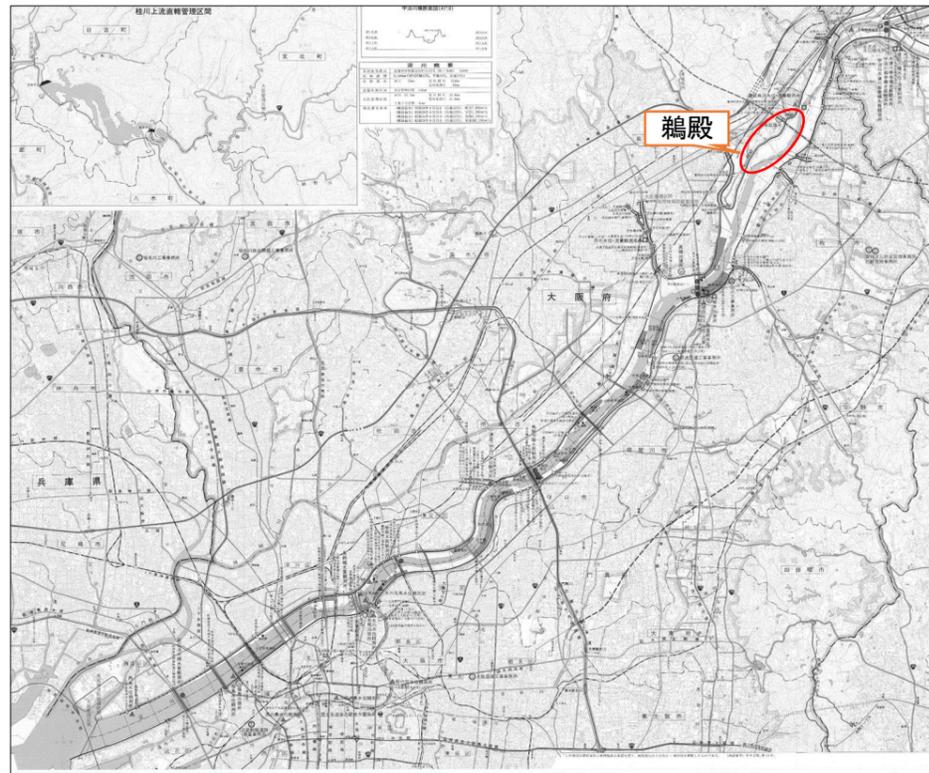


図1 鶺鴒地区の位置

○鶺鴒のヨシ原焼き実施連絡対策会によるヨシ焼きの取り組み

ヨシの育成・管理のための鶺鴒のヨシ焼きは、「鶺鴒のヨシ原保存会」（高槻市道鶺鴒町）や「上牧実行組合」（同上牧町）、高槻市等、地域の多くの方々の参加により継続されている。鶺鴒のヨシ原の保全活動は、自治体、地元住民、その他の住民等の多様な主体により、継続的に実施されている。



写真2 鶺鴒ヨシ原のヨシ焼き（2025年2月23日）

○雅楽協議会によるつる草抜きの取り組み

雅楽協議会は、雅楽の本質的な位置付けに努め、次世代に文化を継承していくために、雅楽演奏者、関係者が協力し、文化の維持、発展、継承に努める組織として、2005年に設立された団体である。箏用のヨシを再生し、文化を継承するため、「つる草抜き」の取り組みが行われている。



写真1 雅楽器 箏の蘆舌



写真3 つる草抜きの取り組み（2022年4月10日）

2 鶺殿ヨシ原の保全対策について

鶺殿のヨシ原では、淀川本川水位の低下、冠水頻度の減少が誘因となり、ヨシ群落の減少、ツル性植物のカナムグラ等の侵入・繁茂が進行してきたことから、1996（平成8）年から導水路を設置し、1998（平成10）年2月から導水を開始した。また、1999（平成11）年6月に高水敷を切下げた環境を初めて整備し、それ以降に引き続き切下げ地整備を進めている。



- ヨシ原の上流側では、揚水ポンプで淀川からくみ上げた水を導水路に流して、ヨシ原に水を行き渡らせる方法で保全している。
- ヨシ原の下流側では、河川敷を切り下げて、ヨシ原を水辺に近づける方法で再生している。

★導水路は二方向に設置したが、現在は堤防側の導水路に導水している。

図2 鶺殿地区の保全対策位置

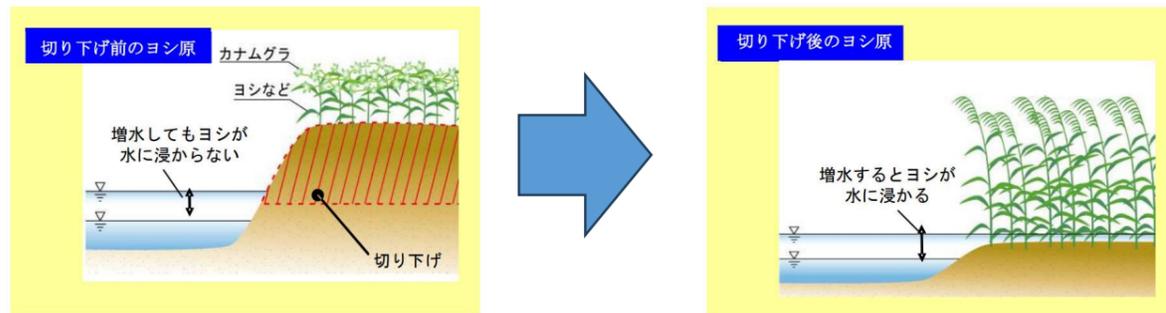


図3 切下げ対策イメージ

図4から、導水、切下げ地整備を開始してから現時点で約20年が経過し、その間に鶺殿のヨシ群落等の割合は増減を繰り返している。

2024（令和6）年については、その他の植物群落が多く、オオブタクサ群落やクズ群落が優占した。

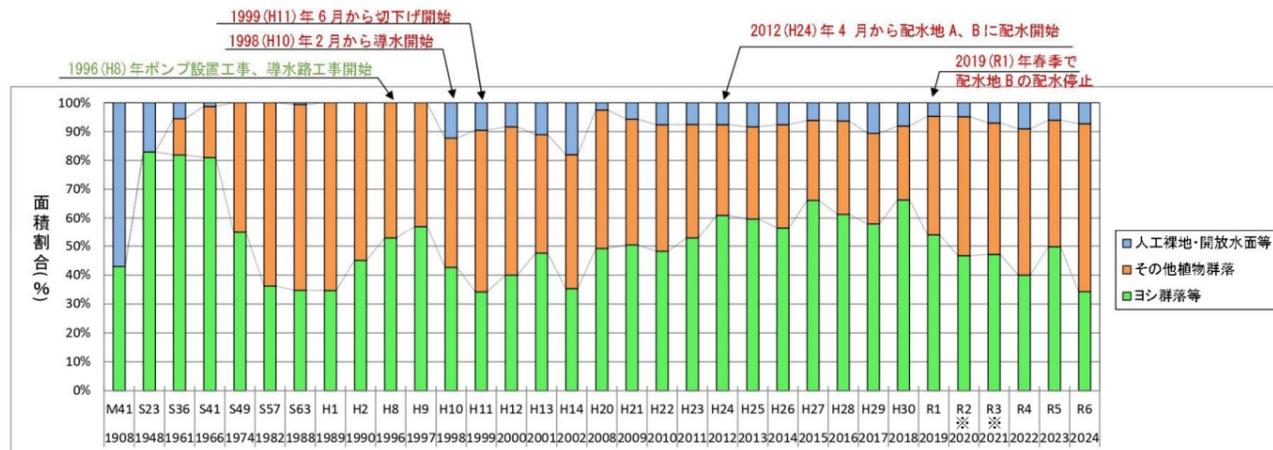


図4 鶺殿地区全体の植生（群落面積割合）の変化

★平成20年以降にオギヨシ群落が新たに定義・追加された。過去との比較のため、「ヨシ群落、オギヨシ群落、オギ群落、カナムグラヨシ群落」をヨシ群落等、「セイタカヨシ群落、セイタカアワダテソウ群落、カナムグラ群落等」をその他植物群落、「農地（畑地・樹園地）、人工裸地・構造物、開放水面」を人工裸地・開放水面等として示した。
※令和2年、令和3年は、堆積したヨシの枯死体被覆面を含む。

3 切下げ地対策とその後の維持的措置（追加工事）の経緯について

図5に切下げ地整備面積の変遷を示す。1999（平成11）年6月から2024（令和6）年2月までに切り下げた面積は、95,000㎡程度に達する。

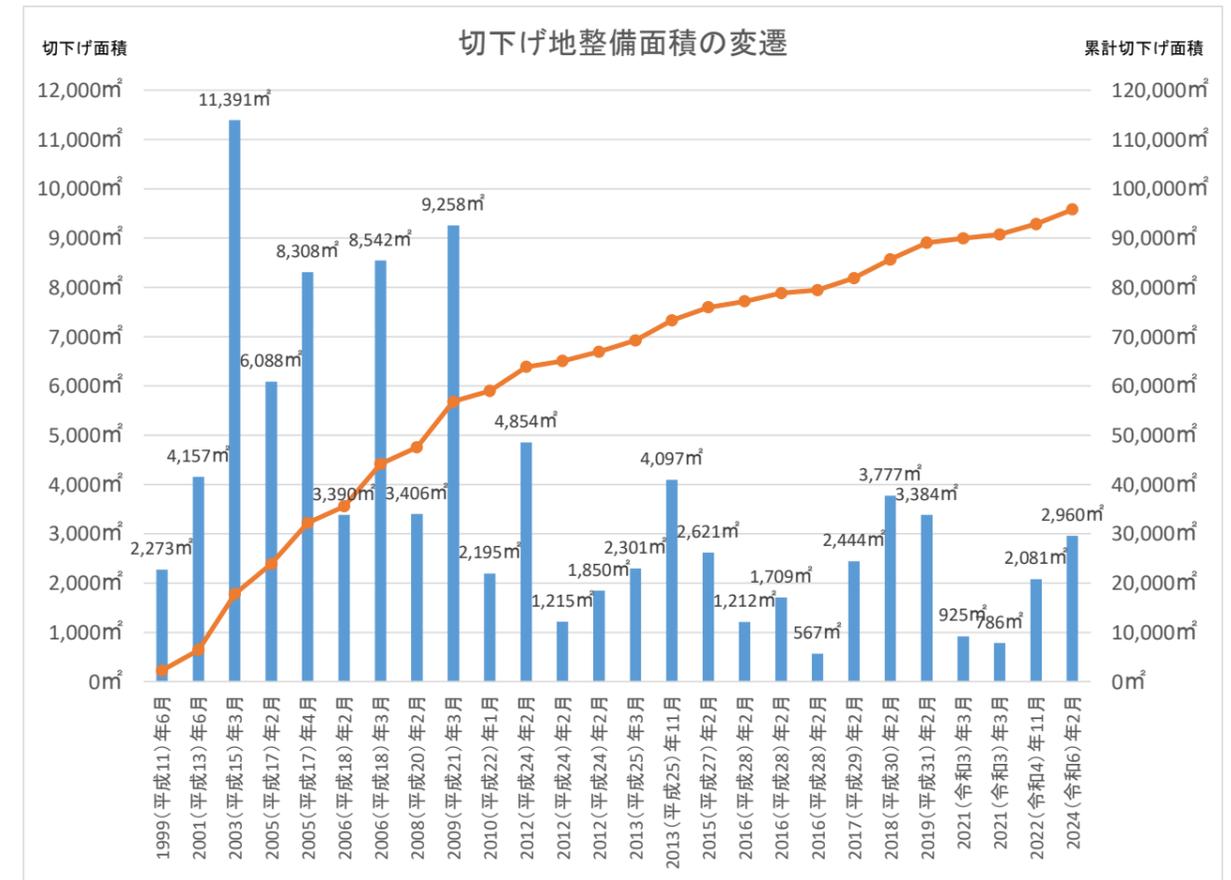


図5 切下げ地整備面積の変遷

切下げ地の表土施工年月等を表 1 に、切下げ地位置図を図 6 に示す。
1999（平成 11）年 6 月に切下げ地 A を整備した後、2024（令和 6）年 2 月の切下げ地 Z の整備まで実施した。

表 1 切下げ地の施工年月等

	表土施工年月	地表面高さOP+ (施工直後)	備考	
本川側	切下げ地 A	1999（平成 11）年 6 月	・3.6～5.6(5段)0.5mごとに高さを変更して切下げ ・OP+4.6m と OP+5.1m の段ではヨシの発芽が良好	
	切下げ地 B	2001（平成 13）年 6 月	・5.0～7.0(3段)1.0mごとに高さを変更して切下げ ・2018（H30）年 2 月 切下げ地 B の OP+7.0 の範囲は、切下げ地 U を整備する際に OP+5.0 まで切下げ	
	切下げ地 C	2003（平成 15）年 3 月	5.0, 6.0	
	切下げ地 D E	2005（平成 17）年 2 月	5.0	
内陸側	切下げ地 F	2005（平成 17）年 4 月	4.7, 3.5(たまり)	
	切下げ地 G	2006（平成 18）年 2 月	5.0	
	切下げ地 H	2006（平成 18）年 3 月	5.1	
	切下げ地 I (水路)	2008（平成 20）年 2 月	-	・2008(H20)年 2 月 内陸側の切下げ地を新川と結ぶ水路を造成 ・2012(H24)年 2 月 水路勾配は正(逆勾配の是正)のため再掘削 ・2016(H28)年 2 月 水路断面確保のため再掘削
	切下げ地 J	2009（平成 21）年 3 月	4.95, 3.5(たまり)	
	切下げ地 K1	2010（平成 22）年 1 月	5.0	
	切下げ地 K2	2012（平成 24）年 2 月	5.0→5.5	・2012(H24)年 1 月 こぶ状に置土 ・2017(H29)年 1 月 こぶ状の置土を修正
	切下げ地 L	2012（平成 24）年 2 月	5.0→5.5	・2012(H24)年 1 月 こぶ状に置土 ・2017(H29)年 1 月 こぶ状の置土を修正
	切下げ地 M	2012（平成 24）年 2 月	5.0	
	切下げ地 N	2013（平成 25）年 3 月	5.0	
	切下げ地 O	2013（平成 25）年 11 月	5.0	
	切下げ地 P	2015（平成 27）年 2 月	5.0	
	切下げ地 Q	2016（平成 28）年 2 月	5.0	
	切下げ地 R	2016（平成 28）年 2 月	5.8程度*	・2018(H30)年 6 月 と 2019(H31)年 3 月 NEXCO 工事発生土を試験的に覆土
	切下げ地 S	2016（平成 28）年 2 月	5.0	
	切下げ地 T	2017（平成 29）年 2 月	5.5	
	本川側	切下げ地 U	2018（平成 30）年 2 月	NEXCO 工事発生土を試験的に覆土
		切下げ地 V	2019（平成 31）年 2 月	NEXCO 工事発生土を試験的に覆土
		切下げ地 W	2021（令和 3）年 3 月	5.0
	内陸側	切下げ地 X	2021（令和 3）年 3 月	5.0, 5.5, 4.9, 4.7 (周辺の切下げ高さにあわせている)
切下げ地 Y		2022（令和 4）年 11 月	6.5	
切下げ地 Z		2024（令和 6）年 2 月	6.5	

*令和 4 年 1 月地形図より

2020(R2)年 8 月において、土砂の堆積が進行した本川側の切下げ地を冠水しやすくするため水路を整備した。
また、ヨシ原においては、筆築用のヨシの採集が継続され、定期的にヨシ焼きが実施されている。



図 6 切下げ地位置図

4 鵜殿ヨシ原における植生
 (1) 2024(令和6)年の植生図(春季と秋季)

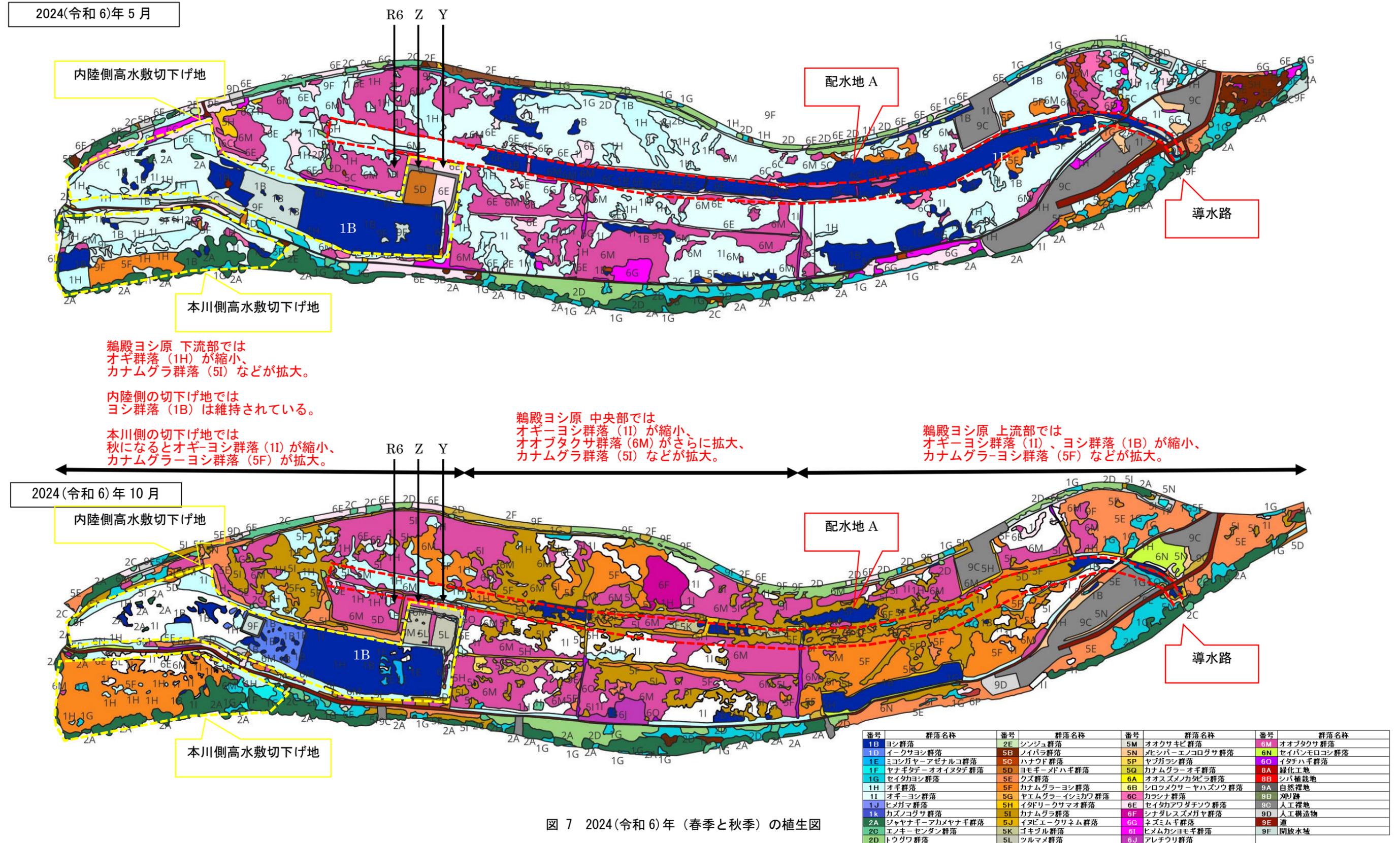


図 7 2024(令和6)年(春季と秋季)の植生図

(2) 2023(令和5)年5月と2024(令和6)年5月の植生図

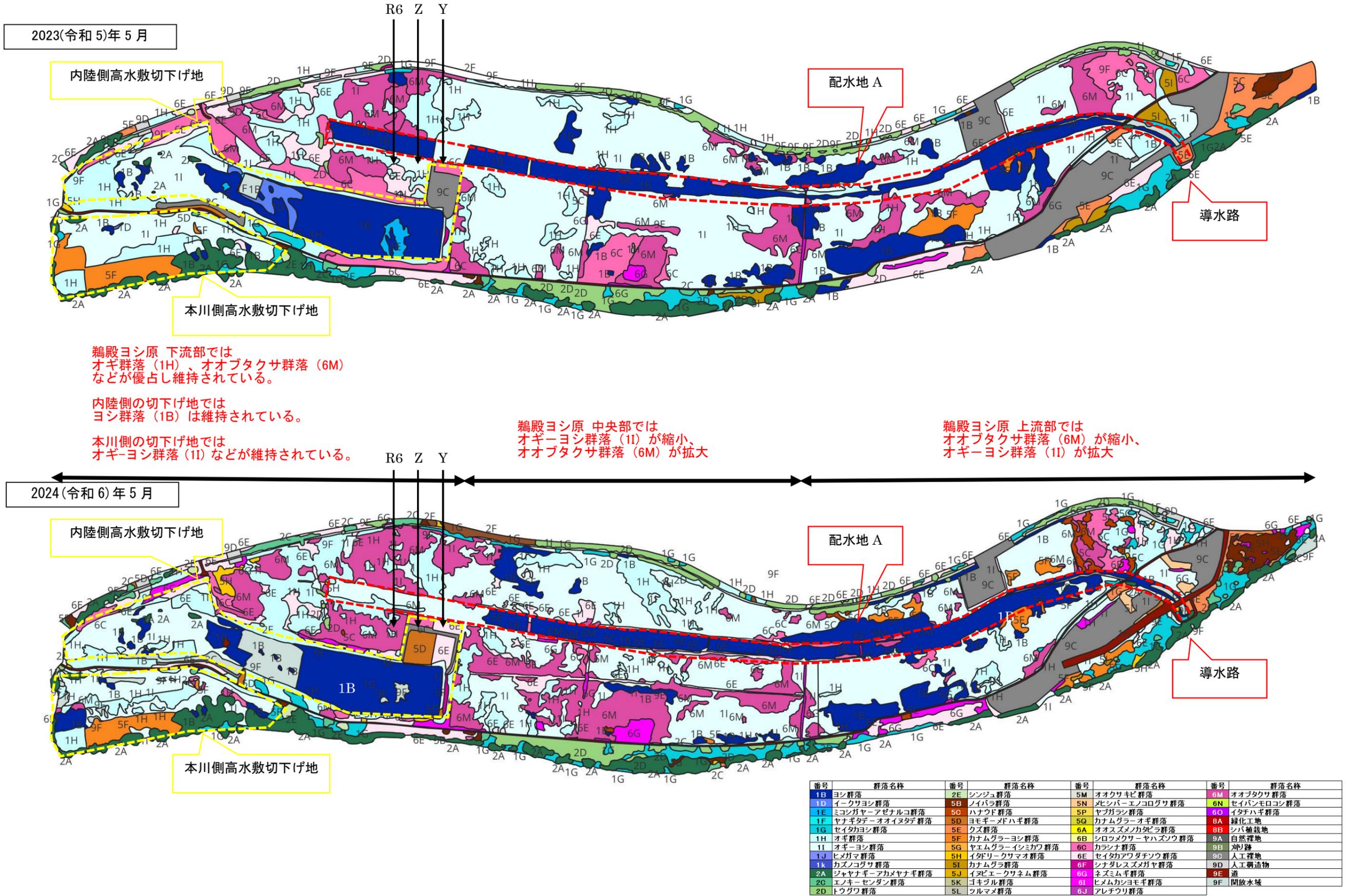


図 8 2023(令和5)年と2024(令和6)年の春季植生図

(3) 2023(令和5)年10月と2024(令和6)年10月の植生図

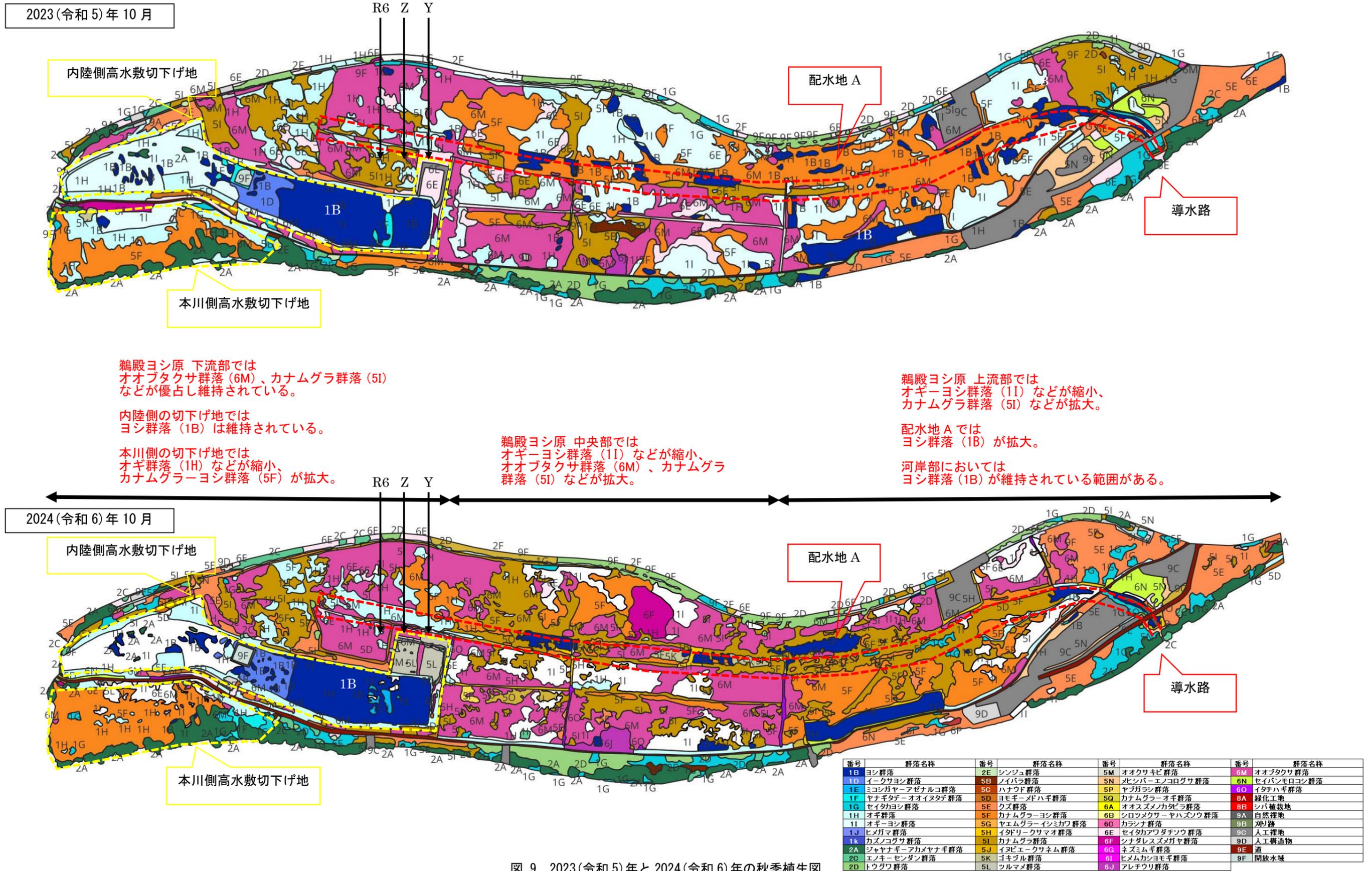


図9 2023(令和5)年と2024(令和6)年の秋季植生図

令和 7 年度以降 陸域環境部会について

1) 鶴殿ヨシ原の保全・再生

- 高水敷の切下げについては、植生の経年変化を確認しながら、令和 4 年度以降に実施の中間切下げ（切下げ高さ OP+6.5m）を継続実施する。
- 本川側切下げ地においては秋季になるとカナムグラ等のツル草でヨシが倒伏することがある。今後、本川側切下げ地の改善を検討する。
- 近年、導水路（配水地）において下流のほうまで配水が到達しない事例がある。導水路の上流のほうで土砂が堆積している可能性がある。導水路の改善の方向性等について検討する。